

教員名	内田 伸子 (UCHIDA Nobuko)
所 属	大学院人間発達科学専攻
学 位	学術博士 (1990 お茶の水女子大学)
職 名	理事・副学長
URL / E-mail	<a href="http://www.hss.ocha.ac.jp/psych/devpsy/home.html">http://www.hss.ocha.ac.jp/psych/devpsy/home.html</a> / uchida@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

言語と認識の諸問題 / 言語・認知発達 / コミュニケーション力 / 幼児の安全教育

## ◆主要業績

総数 ( 19 ) 件

1. Ejiri, K., & Uchida, N. (2006) The intrinsic link between gesture and speech at the prelinguistic stage. In N. mineharu, R. Mazuka and Y. Shirai (Eds.), The handbook of East Asian psycholinguistics. Vol. 1 : Japanese., 26-33.
2. Uchida, N., Murakami, Y. & Fernald, A., (2006) An Evaluation of word learning constraints: Japanese and American preschoolers' sensitivity to speaker certainty and uncertainty in word-learning. Research Monograph: Studies of Human Development from birth to Dearth. 9-20.
3. 内田伸子(2006)「子どもは変わる、大人も変わるー人間発達の可塑性ー」『コミュニティ心理学研究』10(1), 1-11. 査読付き
4. 内田伸子 (2006)「ナラティブ・アプローチ」再考ー子安論文に対する共感的・賛同的批評ー『心理学評論』, 49(3), 431-435.
5. 内田伸子・坂元 章(編著) 2007『リスク社会を生き抜くコミュニケーション力』有斐閣、(1, 3, 4, 7章の合計60頁/全196頁)。

## ◆研究内容

21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」拠点の拠点リーダーとして最終年度を迎え、研究成果のまとめの研究を推進した。

学問知と臨床知の統合を目的として、コミュニケーション力の発達に脳科学の手法 (fMRI) を導入しコミュニケーション力を神経学的基盤から探った。研究成果をまとめた論文は磁気共鳴医学会より「研究奨励賞」を受賞した。

18年度の主要テーマは以下の3点である。

- (1) リスク社会における子どものコミュニケーション力の発達について実験研究を行った。
- (2) 幼児の安全教育に関する社会文化的要因の影響を解明するため、子どもの危機管理・安全教育をめぐる問題を診断し、望ましい子育て方策や安全教育の臨床支援プログラムを開発した。
- (3) 幼児教育途上国支援「お茶大モデル」を構築し海外調査基盤(B)の研究報告書を作成した。

## ◆教育内容

**学部教育**：「発達心理学概論」、「人間と情報」の講義では、内容知識を伝えると共に、批判的思考力の育成をめざした授業方法をとっている。授業終了前の3分間作文を授業者の回答をつけて翌週にフィードバックすることにより、受講者の省察に寄与すると共に、一斉教育では双方向学習や学生同士の互惠学習が起こりにくいという弱点を克服するのに効果的であった。

卒論指導した学生1名は大学院前期課程に進学し、桜蔭会奨学金「優秀賞」を授賞した。

**大学院教育**：大学院前期・後期課程の院生の指導に力を入れた。個人指導と論文指導ゼミを組み合わせ修士論文(主査4名・副査6名)と博士論文の研究を指導(20名)した。主査3名、副査2名に博士号の学位を取得させた。心理学コースの教員全員の共同指導ゼミ「ランチトーク」では副主任指導院生に対する研究指導とプレゼンテーション能力の育成に取り組んだ。

## ◆Research Pursuits

---

This year our center entered its final stages of research for the 21<sup>st</sup> Century COE Program “Human Development Research from Birth to Death,” and the results of the project was written up and reported. The goal of our program was to integrate an understanding of the basic sciences with clinical experiences, as well as examine the development of communication abilities from the perspective of neuroscience (using fMRI). Our research was awarded the “Research Encouragement Award” by the Medical Magnetic Resonance Imaging Organization.

- (1) Experimental studies examining the development of communicative abilities of children raised in risk societies were conducted.
- (2) Programs promoting safety education and ideal parenting skills were designed and implemented in order to elucidate how social and cultural factors affect safety education for children and illuminate the problems surrounding risk management and safety education.

I proposed Ochanomizu University model for child education in developing countries.

## ◆Educational Pursuits

---

**Undergraduate education:** In the lecture-based classes of “Introduction to Developmental Psychology” and “Humans and Information,” there is a dual focus of training the students to understand the material, as well as fostering critical and analytical thinking skills. Lectures are scheduled to end 3 minutes, students are asked to record their comments, thoughts, and questions regarding the day’s lecture on a sheet of B6-size paper. This was effective in overcoming the often unidirectional nature of lecture-based classroom education, and promoting a bidirectional flow in education by allowing the students to take part in their own learning process.

**Graduate school education:** Extra attention was given to graduate students just starting their research, as well as those finishing up their dissertations. In order to advance the graduate students’ research for their masters (including 4 principal investigators and 6 secondary investigators) and doctoral (24 students) theses, one-on-one training was combined with seminars on research methods and “lunch talks” on the techniques of giving effective presentations. A total of 3 principal investigators and 2 secondary investigators earned their degrees.

## ◆共同研究例

---

- (1)ベネッセ：メディアミックス教材（子どもの創造的想像力の発達を促し、母子コミュニケーションを活性化するためのメディアミックス教材）を開発し、幼児3人に1人が活用中。
- (2)セガトイズ：ビデオゲームソフト「ビーナ」に引き続き、生活習慣の自立を促す教育ソフト「ミッフィー」を開発し、モニター調査を踏まえて親子のコミュニケーションを活性化演出技法を確立した。
- (3)講談社：幼児アニメ「ミッフィー」を開発。NHK『おかあさんといっしょ』で放映中。

## ◆共同研究可能テーマ

---

- (1)子どものメディア環境のデザイン；子どもの発達に資するメディア環境のデザインについて提言。
- (2)幼児の安全教育についての総合的研究；子どもの危険認知の発達や危険回避方略の発達についての基礎的知見を踏まえて、子ども自身が自律的に安全に配慮できるようにするために環境設定や大人の教育的働きかけについて提言する。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

- (1)ゲームやビデオへの接触が子どもの発達にどのような影響を与えるかについて行動学的アプローチと縦断研究を組み合わせた研究を推進する。
- (2)子どもの危険認知の発達や危険回避方略、コミュニケーション能力の発達について脳科学と行動学的アプローチにより解明する。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

◆発達心理学は人が持つ能力のすべてを扱います。そしてそれらの力の萌芽は、乳幼児期に現れるため、乳幼児を対象とする発達心理学の研究テーマには、無限の広がりがあるといっても過言ではありません。心理学だけでなく、生理学、生物学、言語学、社会学など幅広い学問と結びつきながら、今後も活発な研究が行われていくことでしょう。◆あなたは人の振る舞いをみて不思議だなんて思ったことはありませんか？なぜそんなことをするのか、どうしてこんなことが起こったのか？答えをさがすときには、まず我が身をふりかえってください。最初の被験者はあなた自身なのです。困ったときどうするか、どんな気持ちになったか、どのようにして解決策をみつけたか、我が身をふりかえり、じっくりと自己内対話を交わしてみてください。「なぜ？」の答が自ずと見えてくるでしょう。◆発達心理学は面白い。人の心の不思議を解き明かすのには「発達」や「進化」の視点をもつことが必要です。自分の子ども時代を発見する旅、「発達心理学村」をいっしょに旅しませんか。わくわくするような「名所」や美しい「景観」をご案内し、感動的な「見所」へと同行させていただきます。